

部門長からのご挨拶

2026年度 電子・情報・システム部門長 八木 透 (東京科学大学)

このたび、歴史ある電子・情報・システム部門（C部門）の部門長を拝命いたしました。本部門は、電子材料、デバイス、回路、通信、医用・生体工学から情報、システム、制御に至るまで、極めて広範かつ多様な研究領域を網羅しています。この多様性こそがC部門の最大の強みであり、各分野の専門性を深めるだけでなく、それらが互いに交差する「横断的な技術分野」においてこそ、次世代を切り拓くイノベーションが生まれると確信しております。



私は、これまで一貫して医用生体工学や神経インタフェースといった、工学と医学・生物学の境界領域における研究・教育に従事してまいりました。生体という極めて複雑で洗練されたシステムを紐解き、工学技術と融合させるアプローチは、まさに本部門が目指すべき「学際的な探究」の一つの形でもあります。

現代社会は、CPS（サイバーフィジカルシステム）、カーボンニュートラル、サイバーセキュリティといった世界規模のメガトレンドに加え、AI、IoT、ビッグデータの急速な進化に伴うデジタルエコノミー時代へと移行しています。このような変化の激しい時代において、電気、情報、システムを横断的に扱う本部門が果たすべき役割はますます重要性を増しています。要素技術・基盤技術の深耕を継続することはもとより、「分野横断型新システム創成技術委員会」などの活動を通じて、学術と事業の境界面、さらには工学と他分野の境界に新たな光を当て、技術の融合による新たな応用分野の創出を強力に推進してまいります。特に、電気学会が進める、エネルギー（Watts）と情報（Bits）を融合的に捉える「Watts-Bits構想」の考え方は、まさに当部門の技術領域そのものであり、これらを軸とした次世代の社会基盤創成に注力してまいります。加えて、このパラダイムシフトを確固たるものとするため、電子情報通信学会をはじめとする関連学会との連携を一段と強化し、学会の垣根を越えた協創による革新的な技術革新と社会実装を目指します。

さらに、今後のC部門の発展において、私は「多角的な国際化の加速とグローバルな社会貢献」を重要な柱の一つとして掲げたいと考えております。私自身、かつてフルブライト研究員として米国マサチューセッツ工科大学（MIT）に勤務し、最先端の研究と熾烈な国際競争を肌で体感してまいりました。こうした経験を活かして共通英文論文誌の活性化や国

際会議の企画・運営へと展開し、本部門の国際的な発信力を一層強化してまいります。同時に、発信力を高めるだけでなく、世界への貢献という視点も不可欠です。これまで JICA（国際協力機構）等の活動を通じてメコン川流域の東南アジア諸国の高等教育支援や研究ネットワーク構築に携わってきた経験を活かし、現地の切実な社会的課題に我が国の優れた工学技術で応え、アジアをはじめとする世界の多様な地域へ技術を社会実装していく取り組みを力強く後押ししてまいります。

このような欧米からアジアにまたがるグローバルなネットワークを背景に、C 部門が伝統的に力を注いできた「若手研究者や学生の皆様への支援」もさらに多角化させてまいります。初めて学会発表を行う学生が多く集う部門大会のポスターセッションや、若手研究者の国際会議への挑戦を後押しする **Student Competition Session** の充実はもちろんのこと、多様な国際的バックグラウンドを持つ研究者・技術者が集い、互いに刺激を与え合える環境（協創の場）を進化させてまいります。同時に、知の結晶である論文発表におきましても、定評のある「研究を進めるために有益で示唆に富む査読プロセスの充実と迅速化」に引き続き注力し、国内外の優れた成果が C 部門からいち早く世界へ発信されるサイクルを確立いたします。

会員の皆様には、ご自身の専門領域をより一層深めていただくと同時に、ぜひ専門外の分野、そして広く海外の動向や世界の多様なニーズにも積極的に関心を持ち、この場集って議論を深めていただきたいと願っております。異分野、そして異文化との対話から得られる新たな気づきこそが、次の時代を牽引するイノベーティブな研究テーマの種となります。

C 部門に関わるすべての皆様の知恵と情熱を結集し、科学技術の発展、そして持続可能な国際社会の実現に向けて貢献していく所存です。皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。